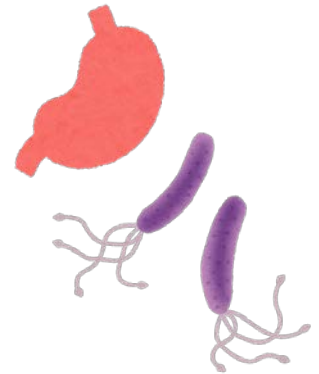


ピロリ菌の検査について

●ピロリ菌とは??

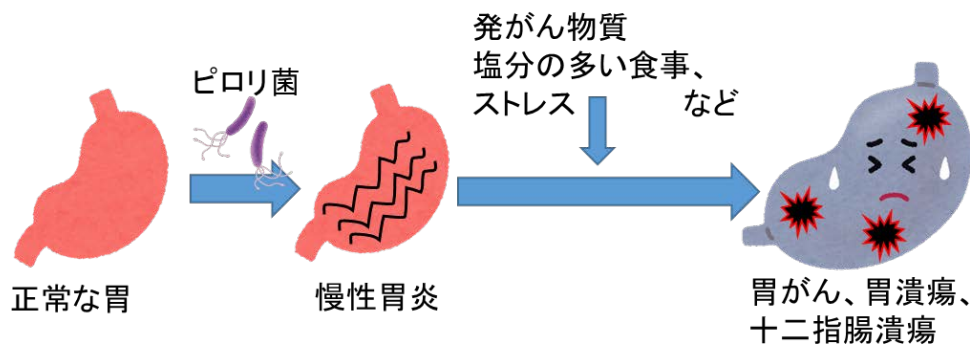
ピロリ菌の正式名は、‘ヘリコバクター・ピロリ’といいます。胃の中に住みついて、胃を傷つけるグラム陰性桿菌です。

胃の中は強い酸性のため、細菌にとって住みにくい環境ですが、ピロリ菌は「ウレアーゼ」という酵素を分泌し、胃の中の「尿素」を分解してアンモニアを作り、胃酸を中和することによって自ら住みやすい環境をつくり生息しています。



●ピロリ菌と病気との関連

ピロリ菌は、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんに関連があります。ピロリ菌に感染した人のほとんどに、胃炎が起こり、除菌しないかぎり慢性的に炎症が続きます。慢性胃炎になると胃の防御力が弱まり、発がん物質やストレスといった環境因子の攻撃を受けやすくなるため、感染していない人よりも胃、十二指腸潰瘍や胃がんが起こりやすくなります。



しかし、感染したからと言って必ず潰瘍や胃がんが発生するわけではありません。日本人のピロリ菌感染者数は約 6000 万人と言われていますが、ピロリ菌が原因で潰瘍や胃がんになる人はごくわずかです。ほとんどの人が慢性胃炎の状態ですら症状もなく一生を終えます。

●ピロリ菌にはどのように感染するのか?

まだはっきりと解明されていませんが、主に乳幼児期に飲み水や食べ物を介して口から感染すると考えられています。衛生環境の良くない発展途上国では感染率が高くなっています。環境の整った現代の日本では感染率は著しく低下していますが、上下水道が十分普及していなかった頃に生まれた世代では、多くの方々が感染していると推定されます。



●ピロリ菌の検査について

ピロリ菌の検査は、血液中の抗体を測定する検査や、内視鏡で胃の組織の一部を採取し検査する方法など色々な方法があります。今回は、呼気を採取して検査を行う「尿素呼気試験」をご紹介します。

尿素呼気試験

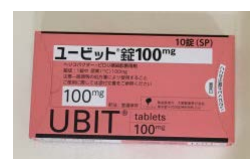
診断薬である ^{13}C -尿素を服用し、呼気中に出される $^{13}\text{CO}_2$ を検出する検査です。胃の中にピロリ菌が存在すると、診断薬の尿素がピロリ菌の持つ酵素により炭酸ガスとアンモニアに分解されます。炭酸ガスは消化管から血中を通り、肺を通過して呼気中に排泄されます。そこで呼気中に含まれる $^{13}\text{CO}_2$ の量の変化を測定することにより、ピロリ菌感染の有無を判定します。

～検査の流れ～

1. 軽く息を吸って10秒間息を止めたあと、専用のバッグに呼気を吹き込む。
2. 診断薬を、水と一緒に服用する。
3. 体の左側を下にして5分間横になる。
4. 体を起こし、座った姿勢で15分待つ。
5. 検査服用後の呼気を1と同様の要領で採取する。
6. 専用の分析器にて測定。



呼気採取バッグ



診断薬



赤外分光分析装置 POCone
(大塚製薬株式会社)

注意点：食後では正しい結果がでないことがあります。
最後の食事から最低でも4時間あけることが必要です。

●検査を受けるには？

- ・胃・十二指腸潰瘍の経験がある、または再発を繰り返している方
- ・胃炎の方
- ・胃 MALT リンパ腫の方
- ・免疫性(特発性)血小板減少性紫斑病(ITP)の方
- ・早期胃がんの内視鏡的治療を受けた後の方



上記にあてはまる方は、健康保険で検査を受けられる場合もあります。
その他の方は、人間ドックや検診などで希望すれば自費で検査を受けられます。
また、胃がん家系である、なんとなく胃の具合がいつも悪いなど、ご心配な方は医師にご相談ください。

※参考引用:大塚製薬株式会社「健康な胃をとり戻そう!」より



「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ(インターネット)で公開しています。
ご参照ください。

ホームページアドレス <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>